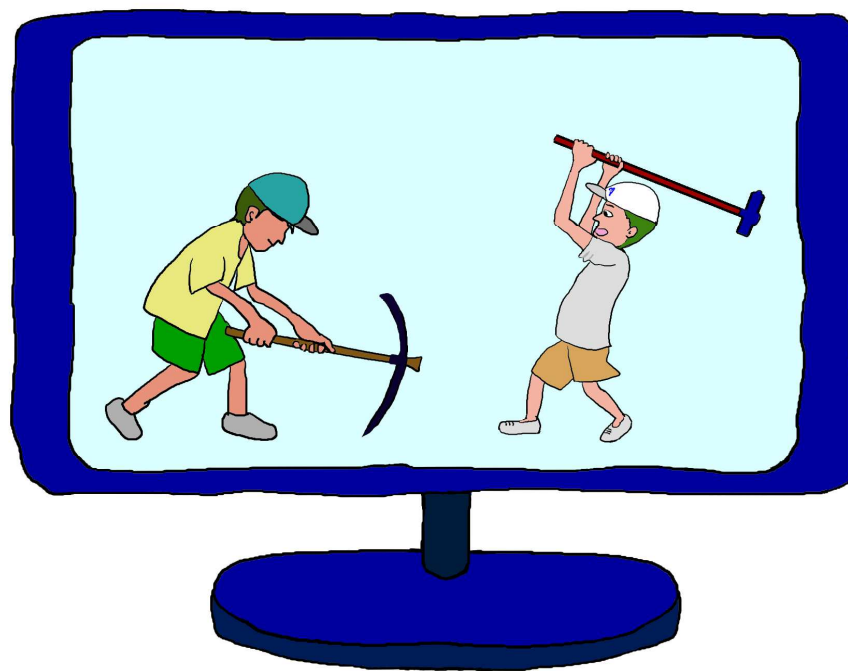


悪いにとは、悪い



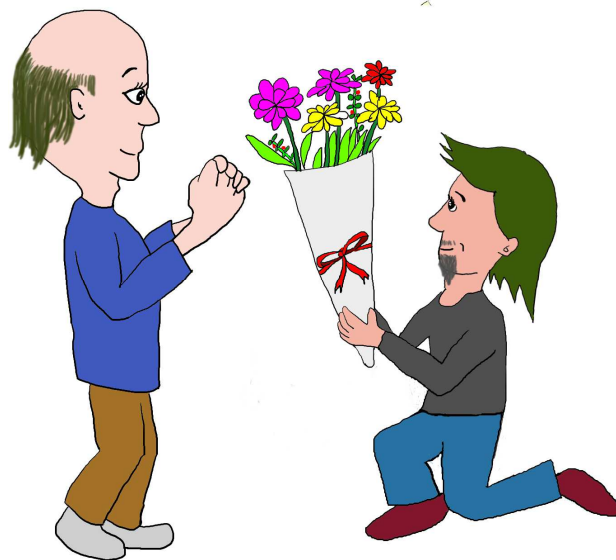
東郷 潤

場所や時代が変わると、ルールも習慣も違います。

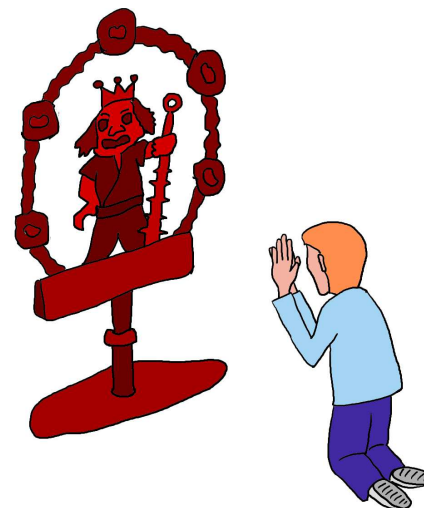
ある国で悪いと言われていることを、別の国の人たちは、普通にしていたりするものです。¹



死刑



同性愛



偶像崇拜

中絶 拷問 マリファナ 売春 幼児ポルノ 検閲 宗教弾圧 差別 不倫 権力の世襲 一党独裁 神権主義 資本主義
共産主義 犬を食べる 鯨を食べる 豚を食べる 牛を食べる・・・

¹ 同性愛、死刑制度、偶像崇拜、その他の善悪について、一切、この絵本で主張しているわけではありません。



別に深く考えたわけではありません。悪いことを悪いと言っただけです。²

² 子供の労働の善悪について、一切、この絵本で主張しているわけではありません。

ところで多くの人々は、子供の頃から、ずっとこう教えられています。

正義のために
悪と戦おう



ごく自然な成り行きで、テレビで見た国と自分の国が戦争を始めました。



数え切れない人々が傷つき、命を落としました。戦争は、とても悲惨なものでした。

さてその後、戦争になってしまった原因を大勢の偉い人たちが分析しています。でも・・・、中にはちよつと的外れなものも、あるようです。



**どっちが悪くて、
戦争が起きたんだろう？**

**本当に悪いのは、
誰なんだ？**

あとがき —絵本「悪いことは、悪い」

善悪という考え方／言葉は、本当に様々な錯覚を生み出します。そして、これらの錯覚は人類の長い歴史の中で、多くの悲劇をもたらして来たと考えることが出来ます。(詳細は、下記WEBの絵本集、 弊著「善悪中毒」、「原爆への復讐」をご参照ください)。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です(商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます)。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2011